

中長期目標	○未来に向かい 自分らしく輝き 豊かに生きる子どもを育成する。	今年度の重点目標	○自己肯定感を高め、主体的に取り組む児童生徒の育成 ○質の高い職員集団の実現 ○安全で安心な学校の実現 ○「チームくらよう」の推進
-------	---------------------------------	----------	--

評価項目	部	年 度 当 初			評 価 結 果 (2)月			
		評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	
自己肯定感を高め、主体的に取り組む児童生徒の育成	A 部門	○子どもたちが日々の学習に期待感をもって取り組み、一人一人の方法で表現する力を育む授業づくり	○ルーティーンになっている流れで見通しを持って生活することができている。 ○学習担当の教職員に対しては、自分の思いを個々の方法で伝えることができているが、「いつでも、どこでも、誰とでも」コミュニケーションをとれるとは限らず、自身の表現力を高めていく必要がある。	○様々な学習活動を通して、児童生徒が一人一人の方法でいろいろな人に気持ちを伝えたり、表現したり、関わろうとしたりする姿が見られる。  ※教員の8割以上が「できた」と回答	○表現、表出について、懇談等を通して保護者から情報収集を行ったり、支援者同士で情報共有を行ったりする。 ○表現力についての研修会を開催する。 ○児童生徒が主体的に取り組むことができるような単元、題材、教材等を支援者で検討し、授業作りを行う。 ○学習グループで使っている教材について情報共有する。	○情報共有については、できた、どちらかというところできたで100%であった。情報共有することが教員間に意識付いている。 ○授業作りに関しては、どちらかというところできなかったが、20%と前期よりも増えた。児童生徒が「主体的に取り組む」とはどのような姿なのか、評価の観点等の共通理解が必要だった。 ○教材等の情報共有については、前期はどちらかというところできなかったという反省も見られたが、後期では、できた、どちらかというところできたが合わせて100%だった。学習グループでの単元等の話し合いが定着してきた成果であると思われる。 ○クラスや学習グループでの様々な取り組みの中で関わりの多い支援者だけでなく、普段関わりの少ない支援者からの働きかけにも個々の方法で応えることのできる姿が増えた。また、他の児童生徒の様子を見たり、児童生徒同士で話し合いをしたりする等、周囲への関心も高まった。一人一人が個々の方法で表現する姿が多く見られた。	B	○児童生徒が主体的に取り組む姿とはどのような姿なのか、学部で共通理解して授業作りに向かう。 ○実態把握、目標設定、授業作り、評価について学部で研修会等を持ち、学部で共通した認識のもとに取り組みを進めていく。 ○関わりの多い支援者との関係性でできていることを「いつでも、どこでも、誰とでも」できる力へと一般化させていくことができるよう、児童生徒と指導者、児童生徒同士の関係性作りへと広げていく。
	B 小学部	○主体的に活動したり表現したりする姿へ繋げる指導・支援の工夫	○児童の達成感や、主体的に活動する意欲を育むため、教育活動全般を通して、様々なアセスメントからの児童の実態把握を行い、発達段階に応じた表出や表現できる学びの場を作っていく必要がある。	○児童が学習や生活の中で、自分で伝えたいことや表現したいことを、自分なりの方法で表出したり表現したりする姿が見られる。  ※教員の8割以上が「できた」と回答 ※学習後の振り返り場面の姿を捉えて、児童の変容を評価	○担任だけではなく、教員間でも児童の実態を共有し、学習内容や指導・支援方法を検討して、評価・改善を行っている。 ○児童の表出力や表現力を広げるために、有効な支援ツールや教材・教具の情報共有を図る。 ○児童の学習の様子や学習の広がりについて、保護者や関係機関と共有し、連携を取っていくことを継続する。	○日々、指導者間で児童の実態(情報等)を共有し、T Tや学習グループで授業計画を立てることができた。同時に、有効だった指導・支援の共有、今後の指導・支援のあり方についてコミュニケーションも取れた。担任・担当クラスだけではなく、支援内容も共に検討する等、指導者皆で児童全員を見ているという意識も高まっている。授業にもよるが、当日に授業の振り返りを行い、授業内容を改善していくことができた。 ○児童の実態に応じた有効な教材・教具、ツールについて話し合いを行い、実際の指導場面で実践することができた。表出・表現を引き出す、幅を広げるために、継続的に指導者が手本(表出・表現方法の言葉やジェスチャー等)を示したり、ICT機器を活用したり、できた際には肯定的な即時評価(視覚的に、称賛の声かけ等)を行ったりした。指導者間で相談し合える雰囲気、学部内でできている。 ○保護者に本校の教育への関心をさらに高められるよう、日々の様子を連絡帳や学級通信、懇談での動画視聴等により、児童の学習内容がしっかりと伝わるように心がけることができた。また文面では伝わりづらいこと、ケガ、気になったこと、支援についてなど、相談も含め電話連絡で連携を図ることで信頼関係をさらに構築することもできた。保護者のニーズから、教育支援会議を実施し、関係機関や家庭での支援について共有すると同時に、よりよい支援・対応について協議し、それぞれで実施できるケースが多くあった。	B	○児童の情報共有について、不十分であったり、意見交換や指導方針を見出すまでに至らない、学習内容や支援方法についてさらなる検討、実態を共有する機会がなかなか持てず適切な関わりに繋がっていないのでは等の意見もある。目指す姿や、そこに向かう段階を共有し、達成度や到達度を確認する機会を積極的に設定し(頻回の会の設定は避ける、日々のコミュニケーション等)、さらに情報を共有する。 ○児童それぞれの主体性を育むための教材教具、単元設定や学習内容の工夫をさらに進める。指導者間でしっかりと学習や単元を振り返り、効果的な支援や学習内容の共有、また次単元や次年度に向けて改善できる点を話し合い、授業作りをしていく。 ○来年度も、関係機関との連携や、保護者からのニーズに応じた対応を継続していく。保護者が学校に相談しやすい体制を作るためにも、日々の連絡帳や電話連絡等、丁寧に対応していく。

様式 3

B 中学部	○表現力の育成を目指した授業の充実	○昨年度の取り組みから、自分なりの方法で気持ちや思いを伝えようとする姿が増えつつある。しかし、伝え方や言葉遣い等に課題が見られ、トラブルにつながる場合がある。また新年度になり、人間関係や学習環境が変化したことにより、自分から気持ちや伝えにくい姿も見られる。	○相手を意識した伝え方を身につけ、自分の気持ちや思いを伝えることができる。 ※教職員アンケートで8割以上が「できた」と回答 ※生徒アンケートや学習の記録から評価	○相手に伝わったという経験を積み重ねられるよう、生徒と指導者や生徒同士がやりとりをする機会を意図的に設定する。 ○自分や相手の良さに気づき、認め合える環境づくりを目指し、学習過程や成果の掲示、動画を用いた振り返り、生徒同士の相互評価などを行う。 ○学習グループや学部内で、生徒の様子や学習の工夫、指導支援等について情報共有を行う。	○アンケート集計より そう思う20%、だいたいそう思う60%→80% あまり思わない20%、思わない0%→20% ○気持ちを伝えやすくなるような人間関係・雰囲気づくりに努め、自分なりの表現で学習の振り返り等の気持ちを伝える機会を設定したことで、自分の意見が大切にされる経験を積み重ね、自分から発言しようとする姿につながった。また生徒間で生じたトラブルに対して指導者が速やかに対応したことで、少しずつ関わり方も改善しつつある。 ○様々な学習場面の中で、いろいろな立場の相手(先生、先輩、お客様等)によって話し方や態度を意識する姿が見られ、敬語などが使えるようになりつつある。相手に伝わるまで伝えようとし、言葉を工夫する姿も増えてきた。	B	○身につけた力を様々な学習場面で活用できるように、学習活動全体を通して、自己表現やよりよい人間関係づくりを目指した活動内容の設定や共通した支援を行う。 ○安心して自分を表現することができるよう、生徒と指導者、生徒同士の関係づくりを行う。 ○生徒の実態把握や授業づくり、支援などのうまくいった事例や改善策などを、学習グループや学部内で情報共有する。
	○一人一台端末(ICT機器)を利用した学びを通して、周りの人とのやりとりができる生徒の育成	昨年度、学部研究で、指導者と生徒、生徒同士のやりとりのある授業づくりに取り組んだ結果、生徒が意思を伝える機会、やりとりする機会が増えた。しかし、単一、重複とも生徒同士のやりとりに関しては、まだまだ改善する必要があるという課題が残った。今年度はそれに加え、高等部一人一台端末の導入に伴う、ICT機器を利用した新しい学びを推進する必要がある。そこで、今年度は、授業や生活の中でICT機器を利用しながら、指導者や生徒同士でのやりとりを増やす取り組みを通して、自己肯定感を高めるようにしたいと考えている。	① 生徒が、授業や生活の中でICT機器を利用した学びをすることができる。 ② 生徒が授業や生活の中でICT機器を利用しながら、指導者と、もしくは生徒同士でのやりとりをすることができる。 ※以上、指導者に中間・期末アンケートを行い、2つとも80%以上でA評価、1つ以上が80%でB評価、①②とも80%以下の場合C評価としたいと思います。 ③ アンケート回答が可能な生徒には、ICT機器を利用して、学ぶことが楽しくなったかどうか聞いてみたいと思っています。	○まずは、指導者がICT機器を利用した学びについて理解する必要があるため、学部で研修会を行う。 ○授業や生活の中でICT機器を利用した学びの実践例を共有しながら、取り組みを進める。 ○昨年度の学部研究での、やりとりのある授業づくりを基盤にしながら、ICT機器を活用しながら、やりとりを増やしていくか授業づくり研究を進めていく。	①70.6%(5月末)→95.8%(10月)→96%(12月) ICT機器を活用することで、積極的に学習に取り組む姿が増えた。絵カードや音声アプリを利用して意思を伝えたり、プレゼンアプリに写真を貼りつけたり、自分の思いをまとめたりするなど自己表現の幅が広がった。 ②17.6%(5月末)→66.7%(10月)→96%(12月) 夏休みの外部講師研修や、学部研でお互いの実践を見合う機会を通して、ICT機器を利用したやりとりのある授業づくりの取り組みが進んだ。端末操作をする際に自分から指導者に質問したり、自分の思いをまとめて周りの人と意見交換したりする機会が増えた。友だちの発表に対して、自分が聞きたいことを質問したり、自分の経験を交えながら相手にアドバイスを伝えたりする姿が見られるようになった。 ③当初の活用は、YouTubeが見られる、調べたいことをすぐに検索できる程度だったが、音楽で自分が作った曲をみんなに聴いてもらえることや、自分の意見を発表してみんなから反応があることがうれしい、自分でアプリの学習を進められることが楽しいに変化していった。	A	来年度もICT機器のよさを活かした取り組みをさらに増やしていきたい。 ○プレゼンづくりやコミュニケーションアプリ等の活用を通して、自分の思いや考えを周りの人に伝わるようにすること ○学習を通して、なぜそのように考えたか、周りの人の考えを聴いて、自分の考え方がどのように変化していったか等を相手に伝わるように説明すること ○ICT機器を利用して、選択肢の中から自分の目標を決めることや、実際にした場面の画像や映像を見ながら、目標を達成できたかどうか、何ができていて、次何をがんばるのか等、ふりかえりをする

年 度 当 初				評 価 結 果 (2)月				
評価項目	部	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	次年度への改善方策
質の高い教職員集団の実現	研究部	○児童生徒の表現力を育成するための指導者の授業力向上	○令和4年度は2回の研究の日を通して全学部の複数の授業公開を実施することができた。他学部の普段の実践を知り、学び合うことのできる良い機会となった。本校オリジナルの授業研究の方式を来年度も継続しながら、令和5年度からは表現力の向上をテーマに新しい研究に取り組んでいく。	○学部ごとや全体の授業を公開することを通して、表現力向上をめざした授業の工夫を知ることができる。 ※教職員アンケートで8割以上が「できた」と回答	○授業者が実態(アセスメントの結果等)・目標・授業の工夫がわかるシートを準備する。 ○授業者と参観者が授業について建設的に話し合うことができる「授業公開」となるような場を設定する。	○全体の授業公開を通して、参加した教職員の98パーセントが、表現力向上をめざした授業の工夫を知ることができたとアンケートに回答があり、目標は達成した。他学部の授業を見る機会を得られたこと、積極的に建設的な話し合いが行われたことなど、発表者にとっても参観者にとっても実りある研究となった。また、短時間の公開であることが、発表者にとっては負担感の軽減となった。	B	○今年度の授業公開のやり方を元に、良いところを見つけるだけでなく、建設的なやりとりにより改善点等も話し合うことができるような授業公開をしたい。 ○研修については、引き続き、児童生徒の表現力を育成するための指導者の授業力向上を目的としたものを検討する。
	教務部	○授業に生きる年間指導計画の整備	○年間指導計画の見直しを毎年行う中で、各活動のつながりを意識した立案がされている半面で、学級経営簿の簡素化で各教科等の活動計画の横のつながりの把握が難しくなった実態がある。 ○合わせた指導における年間指導計画が揃っていない実態があり、中身の検証等と合わせて整備が必要である。	○各教科等の年間指導計画の書式について整備を完了させることができる。(すべての計画を作成) ○各教科等の年間指導計画をまとめられる書式を作成し、各教科等のそれぞれの年間指導計画を横断的に確認できるものを作成する。	○学部の系統性を確認しつつ、すべての教科、合わせた指導等の年間指導計画の作成を進める。 ○各教科等の年間指導計画作成作業で全体をまとめられるように書式等の工夫を行う。	○年間指導計画の書式については、整備に向けて学習部を中心として動き出すことができた。しかしながら、形としての整備に留まり、内容についての検討が今後必要になる。 ○学習を横断的に確認できるものとしての評価シートが年度内にまとまりきらず、年度を超えての取り組みとなる。横断的に学習を確認できるツールは本校の教育の質につながるものとして継続して整備・運用をする必要がある。	B	○書式を整備したことに合わせて、内容についての研修や編集作業を組む必要がある。学習指導要領に則って年間指導計画の作成に全校で同じ方向を向いて取り組む。 ○学習の横断的な把握のためのツールは、年度の始めからの運用となるため、検証をしながら取り組む。 ○個別の教育支援計画、指導計画、年間指導計画等のつながりを考慮した記述に向けての研修や書式の整備等を行う。

様式 3

全体	<p>○時間外業務の原因把握と業務カイゼンの推進</p>	<p>○個々の業務を見直し、継続的に業務量の平準化を図る必要がある。 ○前年度比で月45時間を超えて時間外勤務をする者が増えている実態がある。</p>	<p>○日々勤務簿の自己管理を徹底するとともに、研修等で自ら業務カイゼンに参画し、具体的な改善策に向けて取り組む。 ※教職員アンケートで8割以上が目標達成のための方策を「できた」と回答</p>	<p>○会議をしない日やノー残業ディの設定し、早期退勤への意識を高めるとともに計画的に勤務をする環境を整え。勤務簿の自己管理の徹底を図る。 ○業務カイゼンに関する研修会を実施し、一人ひとりが業務カイゼンに向けての意欲を高めるとともに自ら考えた改善策を取り組みにいかす。</p>	<p>○教職員の93.3%が日々勤務簿の自己管理を徹底するとともに、研修等で自ら業務カイゼンに参画し、具体的な改善策に向けて取り組んでいると回答した。 ○夏季休業中に業務カイゼンに関する研修会を実施し、一人ひとりが業務カイゼンに向けて自ら考えた改善策を提案し、意欲を高めることができた。</p>	B	<p>○業務カイゼンに関する研修会で一人ひとりが業務カイゼンに向けて自ら考えた改善策を具体化するために検討し、取り組みを各担当者を中心に進めている。</p>
	事務部	<p>○事務の効率化と「チーム事務室」の推進</p>	<p>○新たに担当する業務の引継ぎや業務進捗管理に一部十分でなかったところがあった。</p>	<p>○各自の業務が誰が見てもわかりやすく整理されている。</p>	<p>○各自が担当業務の効率化と見える化を行う。</p>	<p>○ODBを作成し、各自で担当業務の効率化と見える化に取り組んでいるところであるが、目標とする状態には至っていない。</p>	C
健康教育部	<p>○状況に応じた感染症対策の実施</p>	<p>○本校はハイリスク施設としての対応が必要であり、新型コロナウイルス感染症の第5類移行後も、その時々状況に応じた感染症対策が求められる。</p>	<p>○校内における感染症対策のマニュアルを作成し、対応を実施する。</p>	<p>○学校保健安全法施行規則等の法的根拠に基づきマニュアルを作成するとともに、教職員に周知し、対応を進める。</p>	<p>○地域や本校のインフルエンザの流行も踏まえて、新型コロナウイルス・インフルエンザの対策を一つのマニュアルにまとめて対応を実施した。対応の実施にあたっては、学校医等からの専門的な意見も参考にした。教職員アンケートでは、90パーセントが「そう思う」、「だいたいそう思う」と回答した。</p>	B	<p>○今後は、学校保健委員会等からの意見を参考に、日常的な感染予防対策と感染流行時の感染症対応としてマニュアルを整理していく。 ○より一層周知できるように、関係分掌、学習部等と連携しながら呼びかけを行っていく。</p>
	<p>○保健指導の充実に向けた環境整備</p>	<p>○保健指導における教材づくりが進んでいる半面、データの保存先が曖昧で活用がしづらかったり、指導要領等から必要な情報を採るのに時間を要したりする。</p>	<p>○保健指導用のデータ教材や授業づくりに必要な情報が活用・共有しやすいように、環境整備を行う。</p>	<p>○校内のデータの保存先を明確にするとともに、授業づくりに必要な文書や情報リンクを添付した一覧シートを作成し、活用の呼びかけを行う。</p>	<p>○保健教材の保存先について周知し、データ教材を保存しやすいようにした。また、校内関連文書や情報リンクを添付したファイル等については、学校が使用しているインターネットクラウドに保存した。</p>		
安全で安心な学校の実現	<p>○安全・安心への意識と体制作り</p>	<p>○各種訓練、研修会、ヒヤリハット等を通して、教職員の安全で安心な環境づくりに対する意識を高めるよう努めている。 ○地震、火事、不審者などの避難訓練の方法や緊急時に使用する機器の扱い等に課題が上がっている。</p>	<p>○児童生徒が安全・安心な環境で学習できるよう避難訓練や安全点検、ヒヤリハットでの情報共有、課題への対応を適切に行っている。</p>	<p>○安全点検を適切に行い、事務部への報告を行う。 ○安全・安心への意識を高める体制作りを行うことができるように、避難訓練の方法などを検討・見直しをしながら計画、実施する。</p>	<p>○ヒヤリハットであがってきた事案の再発を防ぐために、それと関連する点を全職員に呼びかけ、安全点検を行った。安全点検の結果、修繕等必要な部分については事務部へ確認を行い、対応をお願いした。 ○火災・地震の避難訓練を、今までに行われてきた放送に頼る一斉避難ばかりでなく、放送機器の使用不能等、教職員一人一人が考えて避難行動を起こさなければいけない災害想定で行った。職員へのアンケートでは、全員が目標(目指す姿)に対して「ほぼそう思う」以上としており、安全・安心への意識が高まっていると言えるのではないだろうか。</p>	A	<p>○安全点検であがってきた内容を事務部や職員と共有するルーティーンを大切に、安全への注意喚起を怠らないようにする。 ○本年度新たな被害想定で行った避難訓練の内容で、再度行い、職員の意識や危険への判断力の向上をねらう。また、避難訓練方法をステップアップするための検討の足がかりとしていく。</p>
	安全・環境部	<p>○より安全・安心な教育環境</p>	<p>○定期的な掃除道具点検、職員作業により、校舎内外の校内外の環境が整った。 ○TEAS報告やエコ点検を定期的に行っているが、エコについての取り組みがクラスによって差がある。特に、水道、紙の使用量が増えている。点検内容を見直したので、結果を見て呼びかけを行っている。</p>	<p>○安全・安心な教育環境づくりを行うとともに、エコに対する意識が高まる。 ※職員作業の実施(年2回) ※掃除道具点検の実施(年2回) ※水道・電気の使用量で、昨年度との比較を周知する。 ※エコ点検で◎の割合が6割以上</p>	<p>○年に2回の職員作業を計画実施し、安全安心で無駄のない環境づくりを行う。 ○委員会・分掌と連携し、環境に関する啓発をしていく。 ○電気、水の使用に関してエコにつながる具体的な取り組みを示すとともに、掲示板にTEAS報告を載せ、全校への意識づけを行ったり、職員への協力と呼びかけたりする。</p>	<p>○夏・冬の環境整備職員作業では、天候の影響で、一斉には実施せず、必要箇所をそれぞれ整備した。 ○エコ委員会、飼育委員会、給食担当とスムーズに連携できている。野菜くずを捨てずに飼育委員会で利用したり、エコ点検、エコボックスを利用したりするなど、TEASが定着している。 ○エコにつながる環境緑化や節水する生徒の活動の様子をホームページにあげることができた。 ○電気、水道、ごみの量は大規模工事の関係で昨年度との比較がむずかしい。</p>	B

様式 3

評価項目	部	年 度 当 初			評 価 結 果 (2)月			
		現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	次年度への改善方策	
「チームく らよう」の 推進	情報教育部	<p>○本校教育についての理解啓発につながり、指導支援の連携を密にしていけるための教育活動の発信</p> <p>○児童生徒の端末の活用促進</p> <p>○ICTを活用した効率的な業務改善</p>	<p>○定期的に学校ホームページで教育活動について発信しより分かりやすいものとなってきた。</p> <p>○指導者用端末の整備の遅れ等のため児童生徒の1人1台端末による学習活動が十分に実施できていない。</p> <p>○グーグルワークスペースの活用によりペーパーレス化が徐々に進んできた。</p>	<p>○教育活動や学校教育の情報掲載等、学校ホームページの充実を図る。</p> <p>○単一学級児童生徒の1人1台端末を活用した授業が実施できるよう支援する。</p> <p>○教職員のICT研修の他、各分掌や学部、研究部等と連携し、学校全体としてあらゆる機会にICT活用を導入し、効率的な業務ができるようにする。</p>	<p>○定期的に情報掲載できるよう各部門、学部での当番制にし、週1回以上の更新をする。</p> <p>○教材作成や情報モラルの教職員研修の実施や個別のフォローアップやとともに1人1台端末の利用場面の日常化に取り組む。</p> <p>○各分掌業務の中でアンケートなどグーグルフォームで行ったり、ドライブやミーティングを利用するよう声掛けを行う。</p>	<p>○学校ホームページを定期的に更新することができた。また、わかりやすく見やすいページを作成することができた。最終自己評価で98.3%が目標の達成に、そう思う、だいたいそう思うと回答した。</p> <p>○高等部1人1台端末がスタートし、ICT研修や授業支援、相談支援などを実施し、一定の成果があった。アンケートでは最終自己評価で90%が目標の達成に、そう思う、だいたいそう思うと回答した。</p> <p>○グーグルドライブ等のクラウドサービスを利用してペーパーレスやリモート会議が一定の割合で実施されICT活用が進んだ。アンケートでは最終自己評価で91.7%が目標の達成に、そう思う、だいたいそう思うと回答した。</p>	A	<p>○学校ホームページでさらなる情報発信の充実を図るとともに、保護者に対して必要な書類がダウンロードできるようにするなど利便性を高める。</p> <p>○ペーパー教材に代わってデジタル教材を取り入れたり、課題提示や評価、あるいは家庭学習についても連続的な学びができたりするよう効果的なICT活用を目指したい。</p> <p>○教職員の中でもデジタルデバインドがあり、フォローアップ研修や相談支援を継続しながら、学校全体としてICT活用による効率的な業務改善を目指したい。</p>
	支援部(校内)	<p>○関係機関との連携を含めた校内体制の明確化と、それに伴った連携強化の実施</p>	<p>○児童生徒の実態の多種多様化、社会や家庭環境の変化等により、各関係機関との連携の仕方も多様化しており、よりスムーズに連携できるよう工夫をしていく必要がある。</p>	<p>○児童生徒に関する各事案について、全職員が校内体制に沿って、関係機関とも役割分担しながら迅速に対応する。</p> <p>○各事案に関する校内体制について、新たに作成したり追加修正等を行ったりする。</p> <p>○定期的に関係機関と情報共有や共通理解を行う。</p>	<p>○年間を通じて、支援会議等を活用するとともに、関係機関への訪問も積極的に行う。</p> <p>○校内体制について年度初めに全職員に周知徹底するとともに、具体的な事例も挙げながらわかりやすく伝える。</p> <p>○職員会等で全職員に周知徹底するとともに、校内支援委員会を中心に対応についての検証を行う。</p>	<p>○前期に引き続き、校内支援担当を中心に、各学部や外部機関と連携しながら支援等を進めていくことができた。また、校内支援委員会も年間を通じて実施し、情報共有や共通理解を行うとともに、必要に応じて各機関との連携へとつなげていくようにした。それぞれの担当者が自分の役割を意識しながら取り組めるように、役割分担を明確にしながらか進めていくことができた。</p>	A	<p>○今後も周知徹底、具体性、連携、役割分担などに重点を置きながら、より一層スムーズで効果的な対応に努めていく。</p>
	支援部(地域)	<p>○地域校や関係機関のニーズの把握</p>	<p>○センター的機能の活用について利用者側の成果や課題を知る機会が少なく、今後の体制に活用することが難しいケースがあった。</p>	<p>○各種会議や体験等を活用し、地域校や関係機関からのニーズを把握する。</p> <p>○センター的機能活用の成果と課題、ニーズについて、電話、聞き取り、アンケートを実施してまとめる。</p>	<p>○体験入学・体験学習、通級指導教室等の場面で、関係者にアプローチをする。</p> <p>○アンケートは文書に加え、G o o g l e フォームによる回答ができるよう準備する。</p>	<p>○各種会議や体験などを活用して聞き取りを行う際には、より具体的にニーズを聞き取るようにした。それにより的確にアドバイスをしたり情報提供をしたりすることができた。また、対応したケースについては、次回の支援会議や教育相談の予定も決めるようにし、継続的に支援ができるようにした。</p>	A	<p>○気軽に相談できるように、中部地区主任会等で具体的に教育相談やOT指導等について情報発信していく。</p>
	キャリア教育部	<p>○保護者への情報発信</p>	<p>○保護者対象視察研修等を工夫しながら実施する方向で進めている。人権教育・交流や進路に関する保護者への情報提供の充実を図る必要がある。</p> <p>○キャリア教育参観日(11月)に向けた保護者への周知が必要。</p>	<p>○保護者アンケートで8割以上が「進路や人権教育・交流に関する情報発信ができています」と回答する。</p>	<p>○定期的なキャリア教育だよりの発行(PTA人権教育研修会・公開学習・交流関係)・進路に関する学習等の内容掲載)の発行(年6回以上)</p> <p>○卒後に向けた事業所情報提供(中部地区福祉セミナー動画提供)</p> <p>○小・中・高等部それぞれの段階に応じた進路に関する取組の説明(学部懇談・学年懇談等)</p>	<p>○キャリア教育だよりを4回発行することができた。今後も2～3回発行予定。</p> <p>○PTA研修部主催で、視察研修を現地集合・現地解散で実施した。20名弱の参加者があり、質疑応答等活発に行えた。</p> <p>○中部地区福祉セミナーで、事業所動画提供(30カ所分)を行った。</p> <p>○各学部ごとに学部懇談等を実施し、進路に関する取組を説明した。</p> <p>○PTA人権教育研修会を対面形式で実施し、20名程度の参加があった。</p> <p>○キャリア教育参観日に、キャリア教育についての概要説明を行った。</p>	A	<p>○PTA視察研修は、R6年度も継続して実施したい。</p> <p>○中部福祉セミナーは、集合型で分散開催する等、方法を工夫して実施する予定。</p>